

令和 6 年 8 月 28 日

各 位

三神地域農業指導者連絡会作物部会  
三神 農 業 振 興 セ ン タ ー

「稲・大豆作情報（第 9 号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

## 1. 気象概況（アメダス観測地：佐賀）

【半旬ごとの気象データ】

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 mm	平年 mm	本年 hr	平年 hr
8月	1	31.7	28.8	37.1	33.7	27.6	25.1	4	31	47.5	35.0
	2	31.2	28.7	36.9	33.6	26.3	25.1	0	33	55.9	34.2
	3	30.2	28.5	37.4	33.2	25.4	25.0	1	38	52.1	32.6
	4	30.7	28.1	36.0	32.8	26.6	24.6	24	43	42.3	31.7
	5	30.8	27.6	35.6	32.3	27.4	24.1	27	46	42.8	31.0

【8月 20 日～26 日の気象概況】（平年と比較して）

気 温：平均気温は 3.1℃高かった。

降 水 量：平年比 93%と少なかったが、地域によって降雨の状況が異なる。

日照時間：平年比 144%と長かった。

## 2. 管内の生育概況

- ・「夢しずく」で乳熟期～糊熟期となっている。
- ・中晩生品種では「ヒノヒカリ」で出穂期頃、「さがびより」で間もなく出穂期を迎える。「ヒヨクモチ」では穂ばらみ期となっている。
- ・紋枯病の発生圃場が散見される

### 3. 情報田生育調査結果（8月20日現在）

（調査結果）

品種名	夢しずく	さがびより	ヒヨクモチ
草丈（cm）	出穂期 8/8（-3）	95.3	79.9
平年値（平年比）		※97.9(97)	83.2(96)
茎数（本/m <sup>2</sup> ）	止葉葉位 13.7	440	602
平年値（平年比）		※398(111)	529(114)
葉齢（L）	止葉葉色 38.9	14.8	16.2
平年値（平年差）		※14.7(+0.1)	15.3(+0.9)
葉色（SPAD値）		36.6	37.2
平年値（平年差）		※34.9(+1.7)	35.0(+2.2)
<b>概況</b>			
生育 ※「さがびより」はデータ欠損年が多いため参考値。 草丈：「ヒヨクモチ」はやや低い。 茎数：「ヒヨクモチ」は多い。 主幹葉齢：「ヒヨクモチ」は0.9L多く、止葉抽出中。 葉色（SPAD値）：「ヒヨクモチ」はやや高い。			

注1)「夢しずく、さがびより」の平年値は、過去7ヶ年のうち収量が最高値と最低値の年を除いた5ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。「ヒヨクモチ」の平年値はH28～R5のうち欠損したR1,2を除く6ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。

注2)ラウンドの都合で小数点以下が一致しない場合がある。

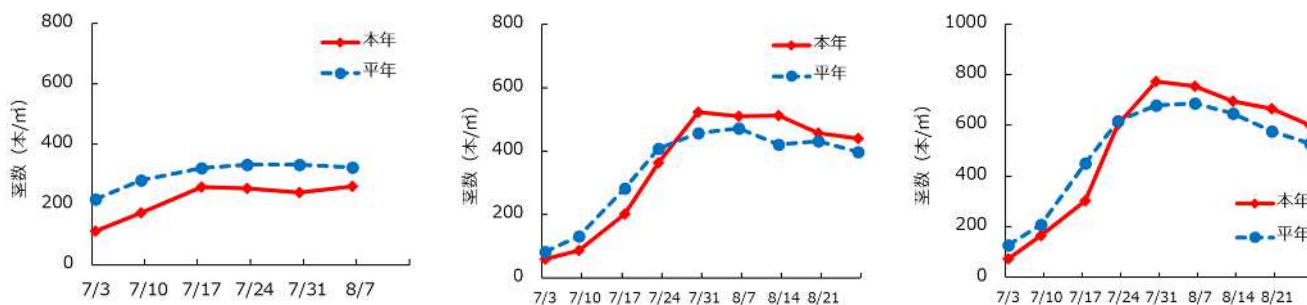


図 面積あたり茎数の推移（左：夢しずく、中：さがびより、右：ヒヨクモチ）

移植日	項		年次	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
	目	品種						
6月18日		夢しずく	本年 平年 平年比(差)	出穂期:8月15日 出穂期:8月17日 -2			[気象] 8月20日~8月26日まで ◆平均気温…平年より3.1℃高い(30.8℃) ◆日照時間…長い(平年比144%) ◆降水量…少ない(平年比93%) [生育] ◆草丈 「さがびより」は高く、「ヒヨクモチ」はやや高い。 ◆茎数 「さがびより」「ヒヨクモチ」どちらもやや多い。 ◆葉齢 「ヒノヒカリ」の主稈葉数は本年14.6、平年14.3でやや多かった。 「ヒヨクモチ」は進んでいる。 ◆葉色 「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」はやや濃い。	
		ヒノヒカリ	本年 平年 平年比(差)	出穂期:8月24日 出穂期:8月27日 -3				
6月20日		さがびより	本年 平年 平年比(差)	101.7 92.9 109	452 437 103	15.2 15.0 +0.2	36.6 35.7 +0.9	◆葉色 「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」はやや濃い。
		ヒヨクモチ	本年 平年 平年比(差)	81.5 78.2 104	531 513 104	16.2 15.6 +0.6	38.3 36.7 +1.6	
留意点	○ 「さがびより」は、“走り穂”がみられ間もなく出穂期を迎える。 ○ 「ヒヨクモチ」の出穂期は、葉耳間長から判断すると平年並み(9月4日頃)となる見込み。 ○ 「ヒヨクモチ」は紋枯病が多くみられた。また、コブノメイガの成虫も多くみられた。							

#### 4. 普通期水稻の今後の管理について (8月28日~)

##### (1) 台風対策

- ・台風10号が8/29~30にかけて接近する恐れがあり、進路によっては水稻への影響が懸念される。
- ・台風通過前後の乾燥風(フェーン)による急性萎凋の発生も懸念されるため、風の強い期間は湛水して蒸散の増加に対応する。

##### 【台風通過前対策】

- ・強風による稲体の動揺(損傷)を減らし、稲体を保護するため、深水管理を行う。

##### 【台風通過後対策】

- ・通過後は浸冠水や汚濁した水を排除し、新しい水と入れ替えて、水稻の根の機能維持や生育回復に努める。
- ・通過後は受光体制が乱れ、紋枯病及びウンカ等が多発する可能性があるため、発生状況に十分注意し、場合により薬剤防除を実施する。
- ・中晩生品種(さがびより・ヒヨクモチ等)において、台風通過後に曇天が続く場合は、籾枯細菌病やいもち病等の穂枯れが発生しやすくなるため、発生状況に注意し、適切な防除に努める。

## (2) 水管理

- ・「夢しずく」は乳熟期、中晩生品種では「さがびより」で穂孕み期頃、「ヒヨクモチ」で幼穂形成～穂孕み期となっている。
- ・台風通過後は、強い水分ストレスを与えないよう間断灌水を実施し、湿潤状態を保つ。

## (3) 施肥

### 「ヒヨクモチ」穂肥Ⅱ

- ・分施の場合、各地区の栽培暦（表1）を参考に穂肥及び実肥を施用する。

表1. ヒヨクモチの穂肥等基準

(現物量kg/10a)

地区	肥料名	穂肥Ⅰ	穂肥Ⅱ	実肥
		8/14～16頃 (幼穂形成期)	8/22～26頃 (穂肥Ⅰの10日後)	9/8～10頃 (穂揃期)
JAさが	LPBB804	35～45	—	—
東部	BB602	25	10	10
JAさが	LPBB804	30	—	—
神埼	BB602	25	15	—

## (4) 病虫害防除

- ・8/27 調査では、ウンカ類の幼虫（発生量は少ない）及びコブノメイガの成虫を確認している。
- ・各圃場での発生状況に注意し、適切な防除を行う。

### ① トビイロウンカ

- ・主要な飛来時期及び発生予測は下図のとおり。
  - ・防除実施後も各圃場での発生状況に注意し、発生がみられる場合には臨機防除を実施する。
- ※本年は多発生条件となっており、今後急増する場合もあるため、圃場毎の発生状況に注意し、適期防除に努める。防除適期は幼虫ふ化揃い期。

### ② コブノメイガ

- ・主要な飛来時期及び発生予測は下図のとおりであるが、県内のトラップ調査では7月中旬以降、断続的に捕獲されており、8月中旬以降の捕獲数は多くなっている。
- ・止葉を含む上位3葉に被害が出ると減収につながるため、圃場毎の発生状況を確認し、追加防除を行うなど適期防除に努める。  
防除適期は幼虫ふ化揃い期（発蛾最盛期の7日後）。

### ③ 紋枯れ病

- ・管内の圃場でも発生がみられる。
- ・病斑を確認した場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展（垂直進展）する時期に防除を検討する。（液剤・粉剤の場合は、出穂の10～20日間を目安）
- ・病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。

#### ④斑点米カメムシ類

- ・ 出穂後に畦畔除草を行うと、水田内にカメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、今後の畦畔除草は行わない。
- ・ 乳熟期（穂揃い期の約 10 日後）を中心に農薬防除を行い、多発生の場合はその 7~10 日後に 2 回目防除を行う。
- ・ 防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

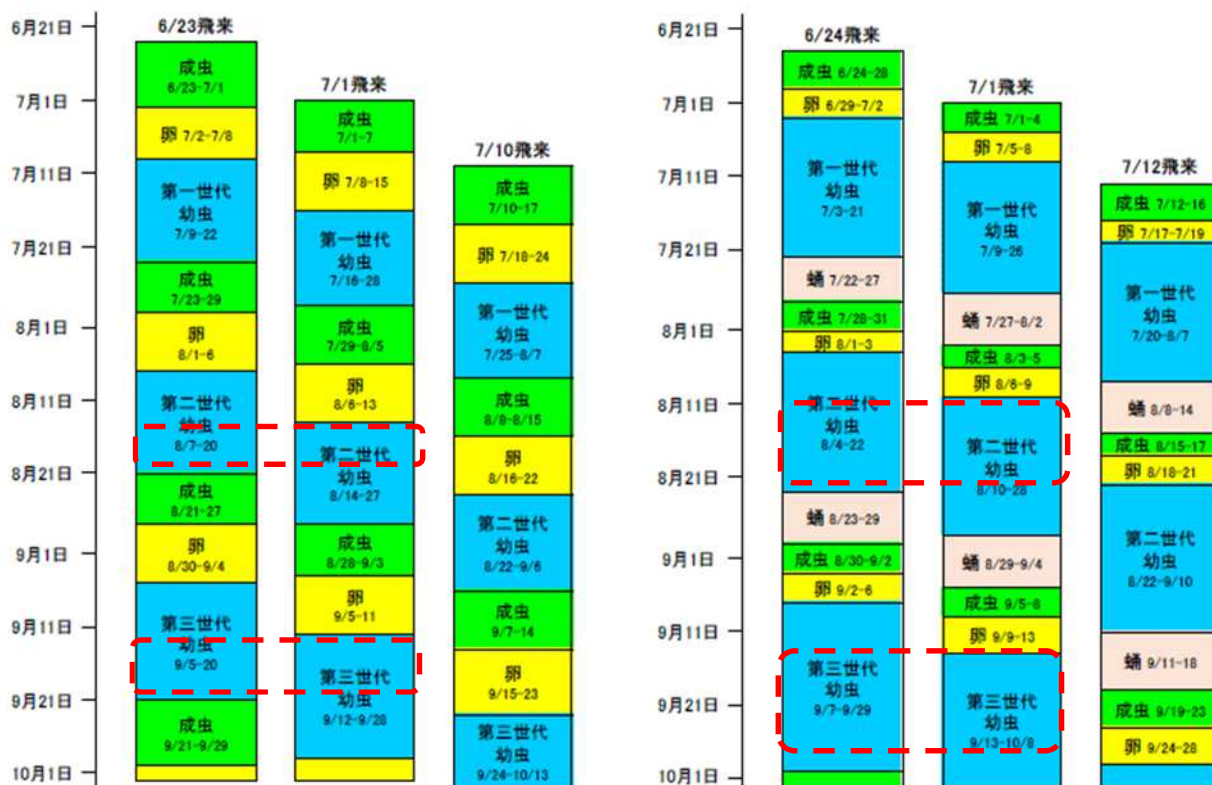



図 各世代の発生予測（左：トビイロウンカ、右：コブノメイガ）

第 2 版 2024 年 7 月 19 日公表

- ・ 今後の飛来状況や圃場条件（移植時期・品種・防除・周辺環境など）によって発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。
- ・ 今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

佐賀県 農業技術防除センター 

## 5. 大豆の今後の管理について

7月上旬に播種された圃場では、開花最盛期となっている。

7月中下旬に播種された圃場で、生育の早いところでは開花始ごろとなっているが初期生育や降雨の状況が異なり、圃場ごとの差が大きい。

開花期以降は特に水分を必要とするため、暗渠排水の栓を閉めるなどして土壌水分の確保を図る。

### (1) 今後の天候

- ・九州北部地方の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ない予報である。
- ・特に8/31~9/6は、気温がかなり高くなる見込みである。

参考) 週間天気予報 (佐賀県: 8月21日9時発表)

今日 28日(水)	明日 29日(木)	明後日 30日(金)	31日(土)	01日(日)	02日(月)	03日(火)
曇後雨 	雨で暴風を伴う 	雨で暴風を伴う 	曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	晴時々曇 
-/30/50/60	70/70/80/70	80	40	20	20	20

### (2) 台風対策

- ・台風による被害は茎の損傷、葉の裂傷等があり、生育量や風速によっては倒伏する。倒伏した場合は、収量や品質が低下するので、できるだけ引き起こす。
- ・台風通過後は、葉の損傷による葉焼病の発生に注意するとともに、紫斑病についても的確に防除する。
- ・降水量が多くなれば、晩播のものでは冠水が想定される。時間が長引けば被害が増加するので、速やかに排水できるように排水路(明渠)を整備する。

### (3) 干ばつ対策

- ・これまで土壌水分確保のためにコルゲート管を閉栓している圃場では、コルゲート管を開栓し、台風通過後の排水を促進する。
- ・台風通過後に高温・乾燥条件が続く場合は、再度コルゲート管を閉栓し、土壌水分確保に努める。

### (4) 雑草防除

- ・雑草の発生が多い圃場では、雑草の発生に応じて生育期の茎葉処理剤を散布する。
- ・除草剤処理においては、使用時期の晩限に注意して使用する。
- ・イネ科の雑草が多い場合はポルトフロアブル、ナブ乳剤、セレクト乳剤等。
- ・アサガオ類、ホオズキ類の難防除雑草が多い地域では、圃場内侵入防止に努める。また、圃場内に発生している場合は、発生が少ないうちに雑草の開花や結実前までに茎葉処理剤のスポット散布や手取りによる徹底防除を行う。



## (5) 病虫害防除

- ・「病虫害発生予察情報第5号(8/7発表)による主な病虫害の8月下旬予報では、「ハスモンヨトウ」「カメムシ類」ともに多発生の条件となっており、予想発生量は平年比「やや多」となっている。
- ・各圃場での発生状況に注意し、適切な防除を行う。

### ①ハスモンヨトウ

- ・管内の一部圃場では白変葉の発生が確認されている。
- ・防除適期は、若齢幼虫による白変葉が見られ始めた頃であり、防除が遅れ中齢幼虫以上(体調約2cm以上)になると防除効果が低下する。
- ・防除後約3日経過した後も高い密度で食害を続けている場合は再防除が必要。

### ②カメムシ類

- ・防除適期は、莢の伸長初期から子実肥大中期である。
- ・圃場毎に大豆の生育量やカメムシ類の発生状況が異なるため、圃場を確認し、遅れないように防除を実施する。

### ③オオタバコガ・ウワバ類

- ・近年発生が多くみられる。本年はハスモンヨトウと同様に多発生の条件となっている。
- ・ハスモンヨトウによる白変葉と異なり、葉に穴が開くように食害されている場合は、オオタバコガ等の虫害と考えられる。
- ・オオタバコガやシロイチモジヨトウには、ノーモルト、トレボンの感受性が低下しているため、使用を避ける。



ハスモンヨトウ



オオタバコガ



シロイチモジヨトウ

# 令和6年産 水稻生育期間気象グラフ

(アメダス観測地点：佐賀，データ更新日：8月21日)

三神農業振興センター

